

2016年度／平成28年度 学校評価公表シート

岩見沢聖十字幼稚園

1.園の教育目標

- あかるい子ども
聖書の言葉に親しみ、苦しいときや悲しいときにこそ、くじけずに進める子ども
- 元気な子ども
豊かな自然の中でからだをきたえ、こころもからだも芯から粘り強い子ども
- かしこい子ども
さまざまな文化に触れ、行事をつくる体験から学び、自分たちで考え行動できる子ども
- やさしい子ども
悲しんでいる人、困っている人に共感できる優しい子ども

2.本年度に定めた重点的に取り組む目標や計画

- 遊びについての研修と保育環境の整備・充実
- 行事の精選と内容の改善
- 教職員の力量向上と待遇改善

3.評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
<ul style="list-style-type: none"> • 園の教育課程は幼稚園の教育要領を踏まえ、園の教育理念・教育目標を基に編成している。 	<ul style="list-style-type: none"> • 園の教育理念・教育目標を教職員が理解し、具現化するためのカリキュラムを組み立てている。今年度は特に行事について精選と内容の改善を図った結果、質を落とすことなく整理された内容を落ち着いて行うことができた。保育についての研修と話し合いを多く持つことができ、全職員が一致した方向で進むことができていた。
<ul style="list-style-type: none"> • 幼児期の発達にふさわしい生活を展開できるように指導計画を作成している。 	<ul style="list-style-type: none"> • 自由遊びや自然に触れる活動、食育などを大切にしながら、園児の発達に合わせた多くの活動をきめ細やかに配置し工夫しながら実施している。
<ul style="list-style-type: none"> • 安全で清潔感のある環境構成をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 毎日の丁寧な清掃と、危険個所がないかのチェックを多くの教職員で行い、報告のあった個所についてなるべくすぐ対応するよう努めた。衛生に関する習慣づけや、体力づくりの成果で、感染症の拡大を防ぐ努力を行った。
<ul style="list-style-type: none"> • 幼児一人一人の姿を受け入れ、その子の良さを認めるよう心掛けている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 配置基準数を超えて教職員を多く配置しており、こまめに情報共有することで、チームとして個々の保育にあたることができた。また、特別支援の必要な園児に対する指導方法を研修できたことが、先生たちの力になった。
<ul style="list-style-type: none"> • 保護者との信頼関係を築くように努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 家庭訪問、個人懇談、親子レク、送迎の時間、お便りノートなどを使って園児の様子を保護者に伝える努力をしていた。また、ホームページで日々の保育の様子をきめ細やかに伝えている。2学期のアンケートを受けて年度途中から、バスと薬についての連絡票を別途新設し行き違いがなくなった。
<ul style="list-style-type: none"> • 地域の自然や社会とのかかわりを持つように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> • 森での活動やすり山登山、田植え等、ふるさとの自然を生かした活動を行っている。また、環境教育でのゴミ拾い、老人ホーム慰問、バザー、フェスティバル、収穫感謝の餅つき、歩くスキー等、様々な場面で地域の方との交流の機会も多い。今後も地域に根差した保育を行いたい。
<ul style="list-style-type: none"> • 保育者としての専門性を高めるための各研修会に積極的に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 教員免許の更新および子育て支援員資格取得、大型運転免許取得など、教職員の意欲を経済的・時間的に支える制度を確立。また、青年海外協力隊への派遣など積極的に取り組んだ。
<ul style="list-style-type: none"> • 人事管理・財務管理を適正に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> • 公認会計士により、適正に運営されていると認められている。

4.学校関係者評価委員会の総合的な評価結果

結果	理由
<p style="font-size: 2em;">A</p>	<p>園長は、園の保育内容、教職員の保育に対する姿勢等を生かし、地域の教育センターとしての役割をしっかりと果たしている。園児数が多いことは、地域に信頼され、期待されていることで、素晴らしい。日常の保育については、活動内容が多いが、園児を理解して努力している。自然を利用した保育は、園児の実態をつかみ、事故防止に万全の態勢で取り組んでいる。行事が多いが、園児数が多い中で、よく指導している。それぞれの行事をよくこなしているようだが、行事の精選も必要と思う。教職員が保育に対してマンネリ化を防ぎ職員の質の向上に心がけている。未就園児、預かり保育等、保護者のニーズに応えている。保育者は、ベテランから若い先生もいるが、助け合っている。PTA活動・バザー・サークル活動等を通して、保護者が交流し、家庭教育の参考になると思う。教職員が、園の教育理念や教育方針を共通理解することは大切である。研修を深め、さらに向上することを期待する。</p>

5.今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭改善に伴い、遊びの質が変わるので、職員全員で危険箇所や危険時間がないか研修や話し合いを積む。森の活動での危機管理について研修を深める。コミュニティ全体の防災訓練への参加など、実践的な防災訓練を今年度行い、大変成果があったので、次年度からも続けていきたい。また、連絡網を一斉メールに切り替えたので、迅速な情報発信を進めていきたい。
教育課程の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの保育の良さはそのままに、行事の精選、小学校への接続を考えたカリキュラムの補充と、キリスト教保育の充実。
保育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・満3歳児クラスの独立による保育室整備、未就園クラスの保育室の整備、年長クラスの机と椅子の整備、室内用アスレチック遊具の整備が済んだので、屋外の遊び環境を豊かにするため園庭整備に力を入れていきたい。
園舎の改修	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭の土留めの改修、園舎の屋根の改修、1階トイレ周りの配線等の改修、駐車スペースの拡充が終わったので、今後は手洗い所・トイレなど水回り部分の改修が必要。

6 関係者評価委員の意見

瀧澤聡様（北翔大学生涯スポーツ学部准教授）

【園長の自己評価について】

評価は、Aが54項目中43項目（79.6%）、Bが54項目中11項目（20.4%）で、CDに関する評価はないとのことでした。約8割がAで占められているので、私からの意見は特にありません。昨年度までの懸案事項や改善すべき事項など、今年度において着手されたとのことですが、教職員の努力によってそれらの成果が表れたことが資料から読み取ることができます。来年度50周年に向けて、3つのプロジェクトチームが動きだすようですので、これらのチームが核になる保育になると思われれます。これまで培った聖十字幼稚園の善さが保全され、さらに保育が機能していくように、教職員一丸となって子どもたちのために頑張ってください。

【教職員の自己評価について】

黄色マスが、Aの数を上回っているBの数という理解が適切ならば、黄色マスの占める割合が、87項目中20項目数（22.9%）を占めていました。特に、Vの「地域の自然や社会とのかかわり」では、7項目中4項目数（57.1%）、VIの「研修と研究」では、16項目中12項目数（75%）を占めており、先生方の多くが、「研修と研究」に対する姿勢に、あまり充足感をもっていないのではないかと考えられました。教員の資質の向上には、「研修と研究」は欠けることのできない要素と私は考えており、それに対する意識が希薄になると、ルーティン化の保育にすぐに染まってしまうと思います。そこには、自己保身や子どもとの新鮮な出会いやかかわりなど、創造的な保育につながりにくい状況が生み出されていくと思います。先生方のコメントを拝読すると、「研修会に参加できてよかった」というコメントよりも、「もっと積極的に」「参加は必要」とするコメントの方が多くようでした。研修会の充足は、園内での保育制度とのからみを無視してできませんので、このことの改善が図られている中で、どのようにすれば、黄色マスを減らしていけるのか、園長先生はじめ主任の先生、ベテランの先生方がまず研修実態を精査し、改善に向けて地道に模索することが肝要と思いました。私が気になったのは、この件だけでして、後は、先生方の率直で具体的な意見が多く見られ、とても良い自己評価になっていると感じました。

【保護者のアンケート結果について】

保護者の方々のアンケートに対するコメントは、園や先生方への感謝の気持ちが多くあり、好感が持てるものでした。日々、先生方や事務の方々が、どれだけ子どもたちのことを中心に考え彼らの成長に働きかけているのか、年に数回しか訪問しない私ですが、それを実感しています。私が感じたことを、保護者の方々の多くが同じように実感されていることであると思います。一方で、保護者の方からの要望や疑問に対しては、明確に歯切れよく保護者に理解を求めており、適切な対応と思われました。全体的にバランスがよく取れていると思われました。

【本園の自己評価について、上記記述以外のご意見、ご感想がありましたらご記述下さい】

先生方の子どもたちに対する真摯な取組、保護者といっしょになって子どもたちの成長を支えていこうという雰囲気、そして地域の方々との連携など、保育を十分に機能させられていることが、通読して理解できました。このことをさらに教職員が自覚し、聖十字らしい保育の善さを保ちながら、改善できることは計画的に実施していくことで、地域に根ざした幼稚園としてますます発展していくと思われれます。

宮野 美紀 様（岩見沢市立緑稜高等学校時間講師）

【園長の自己評価について】

教育運営と、膨大な仕事を継続・維持していただくで大変なところ、新しいことを始め、地域の幼児教育の軸になっていく活動に力を入れているところが素晴らしいと思います。

【教職員の自己評価について】

それぞれの思いや意見が率直に出されていると感じます。子どもたちとしっかり向き合おうとすればするほど、時間が足りないジレンマは、ほかの先生方との連携・共通理解で補い合うしかないのかもしれませんが、良かったと感じている方、足りていないと感じている方と、浮き彫りになった事柄が多くあるので、今後の指標になると思いました。

【保護者アンケート結果について】

保護者アンケートは、各項目に評価・良かったこと・意見・回答とはっきり4つのブロックに分かれていて、とても分かりやすいと感じました。保護者の思いと園の思いの共通理解が進む良い機会にもなると感じました。

【自己評価について上記以外のご意見・ご感想】

娘を入園させていただき、保護者として、その後はリズム講師として聖十字幼稚園に関わらせていただいています。昔も、聖十字の保育方針にほれ込んで入園させてもらったのですが、その頃とはほとんど変わってはいますが、変わらない魅力と、さらなるパワーアップを感じ、聖十字幼稚園との関わりは自分の誇りとなっています。